

生成系 AI の利活用に関する留意点について

1. はじめに

インターネットには様々な情報が溢れており、信頼がおける情報(学術論文等の検証が行われたもの等)もあれば、不確実な情報(客観的な情報に基づかない意見や主張、誤った情報等)もあります。

大学における学びの本質は、社会に存在する膨大な情報の中から信頼に足るもの(正しい情報)を選択し、それらを総合的に検討して自分の意見や主張を構成できる力を磨くことにあります。そのためには、人類の文化・文明を構成してきた普遍的な知識を広く学んで教養を身につけ、批判的な観点で情報と接する力を養うことが必要です。その手段の一つとして、インターネット上の膨大な情報から結果を出力してくれる「生成系 AI」の利用が考えられます。

2. 生成系 AI について

本資料では、生成系 AI として「ChatGPT」を想定していますが、他の生成系 AI も同様に対象となります。生成系 AI や ChatGPT の概要は表1に示すとおりですが、その仕組みや使用されている技術、法規制等に関する最新情報についてはインターネットや書籍等でご確認ください。

表1 生成系 AI に関する語句(野村総合研究所 Web サイトの用語解説より抜粋)

生成 AI	<p>生成 AI(または生成系 AI)とは、「Generative AI:ジェネレーティブ AI」とも呼ばれ、さまざまなコンテンツを生成できる AI のことです。従来の AI が決められた行為の自動化が目的であるのに対し、生成 AI はデータのパターンや関係を学習し、新しいコンテンツを生成することを目的としています。</p> <p>引用先:https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/lst/sa/generative_ai</p>
ChatGPT	<p>ChatGPT とは、文章(テキスト)で質問したことに対して、その意味や目的を理解し、適切な返答を生成してくれる会話型 AI サービス、あるいは、その元になっている会話型言語モデルのことです。2022 年 11 月に人工知能を研究する民間団体である「OpenAI」により発表されました。一般の人向けに無償で提供されているサイトもあり、誰でも自由に質問することができます。</p> <p>深層学習アルゴリズムを用いた大規模な言語モデル(人間が話したり書いたりする言葉を単語の出現確率でモデル化したもの)である GPT-3.5 シリーズをベースに、より人が好ましい(意図に合致する)と感じる返答をするように学習されています。</p> <p>引用先:https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/lst/alphabet/chatgpt</p>

※URL の最終閲覧日は全て 2023 年 11 月 9 日です。

3. 本学における生成系 AI の利活用について

本学では、生成系 AI の利用に関して、学生の知的探究心や IT・情報活用スキルを高める可能性があるため、生成系 AI の利用に関する基本方針において「原則的には禁止しません」と明記しています¹。

学生の皆さんは、学びの補助ツールとしてのメリット(学習や作業の効率化、アイデア出し等)やデメリット(意図しない情報流出、著作権侵害の可能性等)を理解した上で、生成系 AI を利用してください。ただし、生成系 AI が出力した結果(生成物)については、情報の信頼性や倫理的な適合性に十分な配慮がなされていないことに留意してください。

また、生成物を活用するにあたっては、生成系 AI の仕組みや技術、生成物の利用限界等を十分に理解し、皆さん自身が責任を負うことを自覚する必要があります。

なお、本学で想定している主な活用事例は表2に示すとおりです。

表2 生成系 AI の利用に関する想定例

活用場面	具体的な用途
学生による主体的な学びの補助・支援	ブレインストーミング、論点の洗い出しや要約、情報収集、文章校正、翻訳(多言語化)、プログラミングの補助等
生成系 AI を使いこなすという観点を取り込んだ教育活動	生成 AI の原理への理解、生成 AI へのプロンプト(質問・作業指示)に関する工夫やそれによる出力の検証、生成 AI の技術的限界の体験等
授業や研究指導の改善	教員による教材開発、学部生や大学院生に対する論文等の作成指導等

4. まとめ

以上の点を踏まえ、学生の皆さんが生成系 AI を前向きに利用できるよう、データ入力や生成物の利活用に関する留意点としてまとめましたので²、授業における学習や研究活動等にお役立てください。

なお、本資料は、技術進歩や社会情勢を踏まえ、必要に応じて適宜見直していきます。

¹ 鳥取大学における生成系 AI の利用に関する基本方針と注意事項(鳥取大学公式 Web サイト)

<https://www.tottori-u.ac.jp/about/effort/ai/>

² 本資料は、日本ディープラーニング協会が作成した「生成 AI の利用ガイドライン」を基に、Chat-GPT3.5 無料版に「大学生向けの生成系 AI のガイドラインを作ってください」、「大学生に向けて生成系 AI を使うときの留意点を教えて下さい」と入力した結果(参考情報)を踏まえて作成したものです。

生成系 AI の利活用に関する留意点【学生向け】

■生成系 AI へのデータ入力について

○個人情報やプライバシー情報は入力しないでください

- 自分の個人情報だけでなく、調査等で取得した他人の個人情報、プライバシー情報や秘密情報は適切に保護し、生成系 AI の情報源として提供することは避けねばなりません。
- 人権を尊重し、他者の権利を侵害するような情報は決して入力しないでください。

○未発表情報や未公開情報を入力する場合は十分注意してください

- 未発表の内容(論文や申請書等)や未公開の情報(研究成果等)を入力すると、意図せず情報流出や情報漏洩に繋がる可能性があります。それでも生成系 AI を利用する場合は、入力するデータや内容、それに伴うリスク等について十分な検討を行ってください。

■生成系 AI が出力した生成物の利活用について

○出力結果(生成物)は無条件に信頼せず、他の情報と照らし合わせて確認してください

- 生成物には、誤った情報が含まれている可能性があり、その信頼性と精度は保証されていないため、生成系 AI が出力した結果を鵜呑みにしてはいけません。
- 公的機関が提供する情報や信頼性の高い情報(専門家による学術論文や実験結果等)と照らし合わせるなど、内容の真偽についてしっかりと確認することを心がけてください。
- 生成物の使用については、皆さん自身に責任が生じることを認識しておく必要があります。

○生成物をそのまま利用すると、状況によっては不正行為となりますので注意してください

- 課題、レポート、試験、論文等の作成に際して、生成物を自分の創作物として自らの考えや知見を加えることなく、そのまま利用して提出してはいけません。
- 授業(試験を含む)によっては不正行為とみなします。ただし、生成物の利活用について、当該科目の担当教員による事前の提示や説明がある時はその指示にしたがってください。
- 学位論文の審査等では、各学部・研究科の学位論文評価基準に基づく審査や合否判定において不正行為とみなされる可能性があります。ただし、生成物の利活用について、各学部・研究科のルールに関する事前の提示や指導教員による説明がある時はその指示にしたがってください。

○生成物をそのまま利用すると、著作権、商標権等の侵害となる場合があるので注意してください

- 生成物が既存の著作物と同一・類似している場合は、利用(複製、配信等)することが著作権の侵害に、生成した画像やキャッチコピー等を商品ロゴや広告等に使うことが登録商標権・意匠権の侵害に該当する可能性があります。既存著作物に類似のものがいないか自分でしっかりと調査してください。
- 調査結果を踏まえて生成物を利用する場合は、元となった情報の著作権に十分配慮し、適切な出典を適切な形で明記してください。